

職員の研修・学習を すすめています

2015年春の緩和ケア病棟開設に向けて、職員も学習や研修を積極的に行っています。居心地のいい病室や設備だけでは質の確保はできるものではありません。一人ひとりに寄り添う緩和ケアを実現するためには職員の力量を高めることが必要です。そのために、病院の緩和ケアプロジェクトでは様々な取り組みをしてきました。

他病院での見学と研修

まず、他病院の緩和ケア病棟の見学をしました。尼崎生協病院、東神戸病院、神戸市内では一番歴史のある六甲病院でも見学をさせていただきました。

病棟の雰囲気を実際に見ると、担当医師や看護師から活動内容について説明を受けるこ

とで、具体的なイメージを持つことができました。

看護師の研修は、緩和ケアチームがある病院での学習と実習に3名、他院の緩和ケア病棟への1か月以上の研修に2名行ってもらいました。リハ科、栄養科、薬剤科も他院での緩和ケアについての見学や研修に行き、自分たちに何ができるか、これから何を学び、準備しなければならぬかを検討しています。看護師の緩和ケア病棟での研修中の報告書の一部を紹介し

ます。
「つらい症状を抱えておられたり、希望も持てずに来られた患者さんやご家族に対して、スタッフがかけるねぎらいの言葉や暖かい態度がとても印象的でした。もう何もできることはないと思って来られた患者さんに対して、つらい症状が緩和できるよ

うに一緒に考えながら、ご本人の問題もご家族のつらい気持ちも、ともに支えようとするとスタッフの思いがとても強いと感じました」。

多職種参加の学習会

職員一人ひとりが学びを取り組むには、各職場での学習会、多職種による「症例検討会」があります。

当院でがん末期で亡くなられた患者様の事例を振り返り、それぞれの職種の立場で考えてみました。こうすればよかった、こうしておけば…などの後悔をするのではなく、振り返っての学びをこれからの患者さんへのケアに活かしていくことが目的です。また、職種が違ふことで、同じことでも視点やとらえ方が



変わり、これら緩和ケアに関する看護師からも「違った視点から看ることができるようになった。視野が

広がった」などの声が上がっています。

学ぶことが力が

神戸協同病院の緩和ケア病棟の質を高いものにするためには、職員が専門的知識を得、また経験を積んでいくことが必要です。症例検討会については今後も続けていき、緩和ケア病棟開設後も「患者様から学ぶ」ということを大切にしていきたいと思っています。

組合員のみなさん

医師・看護師・薬剤師・リハスタッフを
ご紹介ください。

地域に育ち、地域に根付き、
地域に生かす医療をめざしています。

資料請求・お問い合わせは

神戸医療生協 Tel. 0120-992-986
<http://www.kobe-iseikyo.or.jp/>

お待ち
しています!

